日本全国 能楽キャラバン

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

文化庁 総括団体によるアートキャラバン事業
〈コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業〉

日本全国 能楽キャラバン長崎
金剛流による島原公演 vol.6
島原に息づく能

令和５年１月22日 日 午後２時 開演（午後1時 開場）
於 島原文化会館 大ホール

魂の花――緋の舟にのせて

新作能

沖宮
OKINOMIYA

鼎談

島原市長 古川隆三郎
アトリエシムラ代表 志村昌司
能楽金剛流二十六世宗家 金剛永謹

古典に絵かれて 10月1日 古典の日

ご挨拶

謹啓

平素より、金剛流能楽公演にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

この度は、文化庁の「統括団体によるアートキャラバン事業（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）」による助成を昨年度に引き続き頂戴し、京都３公演、山形公演（米沢）、愛媛公演（松前）、長崎公演（島原）と、古くより金剛流に所縁の深い各地で、合計６公演を開催する運びとなりました。このような大変得がたい機会をいただきましたことを、心より厚く御礼申し上げます。

今年度は、型と舞に工夫を凝らした金剛流らしい演目を取りそろえております。舞台を楽しんでくださることを通して、能楽が人々の身近なものとして普及し、ひいては日本の伝統文化全体への関心が深まることとなれば幸いでございます。

また今回の島原公演には、石牟礼道子さん原作、志村ふくみさん衣装の能「沖宮」を上演いたします。この曲は、多くの方々のお力添えのもと、２０１８年に金剛流にて初演を迎えた新作能でございます。金剛流と縁故の深い島原の地で、そして石牟礼道子さんの原郷・不知火海とつながる地で、「沖宮」に込められた作者の思いが見所の皆様に届きますよう、流儀一丸となって舞台を勤めさせていただく所存です。

当日はゲストに、お二人の方をお招きしております。島原市長の古川隆三郎様には、『島原に息づく能』と題し島原藩と能に纏わる様々なお話を、またアトリエシムラ代表の志村昌司様には、「沖宮」で用いる装束についてのお話を伺います。島原の乱が終わった後の天草を舞台に描いた能「沖宮」と共に、お楽しみくださいませ。皆様のご高覧を、心よりお待ち申し上げております。

末筆ではありますが、コロナが終息して一日も早く平穏な日々が戻ってきますように、また長崎県ならびに島原市の益々のご発展を祈念申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

謹白

令和四年九月吉日

能楽金剛流二十六世宗家　金剛永謹

チケット料金（全席自由席）

一般 …… 3,000円
学生 …… 1,000円

日本全国 能楽キャラバン長崎
金剛流による島原公演 vol.6
島原に息づく能

お問い合わせ

金剛能楽堂事務所 ☎ 075-441-7222　FAX 075-441-7222
http://www.kongou-net.com

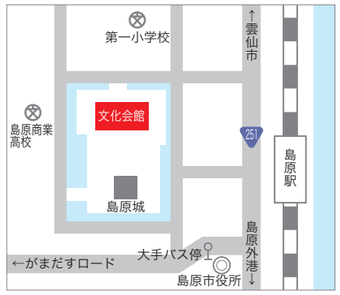
島原城薪能振興会事務局 ☎ 0957-62-2101
http://www.takiginou.jp/

護国寺（島原市寺町） ☎ 0957-62-2411（岩永）
http://www.hello-buddhism.jp/nagasaki/gokoku/

島原金剛会事務局 ☎ 090-2398-7540（荒木）

チケット販売所

- 金剛能楽堂事務所
- 島原文化会館事務所
- 島原城薪能振興会事務局
- 護国寺（島原市寺町）
- 島原金剛会事務局
- 各出演能楽師宅



島原文化会館
☎ 0957-62-2111
FAX 0957-62-2117
https://www.shimabara-hall.jp/

アクセス
〒855-0036
長崎県島原市城内一丁目1177-2
■島原駅より徒歩10分
■大手バス停より徒歩10分
■島原外港より車で10分

協力
・島原新聞社
・(株)ケーブルテレビジョン島原（カボチャテレビ）
・(株)ひまわりてれび
・島原文化連盟

日本全国 能楽キャラバン長崎
金剛流による島原公演 Vol.6

令和5年1月22日 日 午後2時開演
於 島原文化会館大ホール

プログラム　島原に息づく能

舞囃子　善知鳥（うとう）

シテ　金剛永謹
笛　相原一彦
小鼓　成田達志
大鼓　白坂信行
地謡　廣田幸稔　豊嶋幸洋　宇高竜成　山田伊純　向井弘記

鼎談（ていだん）

島原市長　古川隆三郎
アトリエシムラ代表　志村昌司
能楽金剛流二十六世宗家　金剛永謹

能　沖宮（おきのみや）

シテ（天草四郎の霊）　金剛龍謹
ツレ（大妣君）　豊嶋晃嗣
子方（あや）　南坊城碧子
ワキ（村長）　有松遼一
笛　森田光次
小鼓　成田達志
大鼓　白坂保行
太鼓　吉谷潔
後見　金剛永謹　廣田幸稔　豊嶋幸洋
地謡　向井弘記　宇高徳成　山田伊純　種田道一　惣明貞助　宇高竜成

休憩

（終演予定時刻　16時30分頃）

主催　公益財団法人 金剛能楽堂財団
後援　島原市
協賛　古典の日推進委員会　島原城薪能振興会
護国寺
島原金剛会

新作能
沖宮（おきのみや）
OKINOMIYA

戦に散った天草四郎と生き残った少女あや
そして、人々の死と再生の物語
原作／石牟礼道子
衣裳／志村ふくみ

「村々は
雨乞いの　まっさいちゅう
緋の衣　ひとばしらの舟なれば
魂の火となりて
四郎さまとともに海底（うなぞこ）の宮へ」
―石牟礼道子が亡くなる10日前に口述した句―

撮影／矢幡英文『遺言』（ちくま文庫）より

新作能「沖宮」への望い（おも）

二〇一八年二月十日に九十歳で亡くなった作家・石牟礼道子と染織家・志村ふくみは、近代と前近代のあわいを見つめながら長年仕事に打ち込んできた。現代日本への危機感を募らせた二人は、「今こそ伝えておかなければ」と語り合い、次世代に残したい最後のメッセージを新作能「沖宮」に託す。

「沖宮」　あらすじ

島原の乱のあと日照りが続き、天草下村では雨乞いのため、龍神に生贄（いけにえ）を捧げることになった。生贄には、みなしごのあやが選ばれる。今生との別れの前に亡き父母を弔わせようと、村長（むらおさ）があやを原の砦（とりで）に連れていくと、あやと乳兄弟であった天草四郎の亡霊が現れる。雨乞いの人柱に定められたあやに、海底には沖宮（おきのみや）という常世があって、生きもの全ての命をつくる大妣君（おおはわぎみ）がいらっしゃるから、嘆かなくてもよいと四郎は慰める。四郎もまた、島原の乱に加わった三万七千の者と共に飢えに苦しみ、無残な敗死を遂げていたのであった。やがて雨乞いが始まり、この世の悲しみすべてを引き受けるあやのために、村の女たちが縫い上げた緋色の衣装を、四郎はあやに着せる。鉦（かね）太鼓が鳴り響き、「雨をたもれ。雨をたもれば姫たてまつる。」の祈りが唱えられるうち、稲光が耀き、天と海とを引き裂いて龍女が現れる。龍女の姿で現れた大妣君は、「あやを例えたら暁の雷で、人々の涙のしずくに洗われて、まさに今咲（ひら）かんとしているごとくだ。あやの言葉にならない胸底の想いを花となして、常世の灯明にしよう。」と告げ、恵みの雨を沛然（はいぜん）と降らす。あやは天青の衣をまとった四郎に手を引かれ、むごいこの世を離れて、命の母なる神がいるという沖宮へ沈んでいく。

「日本全国　能楽キャラバン！2022　金剛流公演」について

舞金剛と称されるにふさわしい演目を選び、京都並びに、金剛流とゆかりのある山形県米沢市、愛媛県松前町、長崎県島原市にて、計6公演を連続開催いたします。当日は、能楽師による解説や、上演曲と関わりの深いゲストからお話がございますので、初めて「能」を鑑賞される方も、謡を習っていらっしゃる方も、様々な視点から舞台を楽しんでいただけるシリーズ公演となっています。